

令和7年度

施政方針

宇治市長 松村 淳子

目 次

1. はじめに	1
2. 令和7年度予算編成の基本的な考え方	2
3. 物価高騰への対応	2
4. 第6次総合計画の着実な推進	
(1) 重点施策	
①WITHコロナ・POSTコロナ時代の安全・安心	3
②みんなで作る子育て・子育てにやさしい地域共生社会	5
③活力あふれる産業振興と未来への投資	9
(2) まちづくりの土台となる取組	11
5. おわりに	11

1. はじめに

令和7年度当初予算及び諸議案のご提案にあたりまして、市政運営に臨みま
す施政方針を申し上げます。

昨年12月の市長選挙におきまして、多くの市民の皆様からご信任を賜り、
第20代宇治市長として引き続き市政を担わせていただくこととなり、就任後
2か月間、2期目のスタートとして令和7年度に向けた歩みの中で、改めて、
市政運営に対します市長に課せられた使命と責任の重さを感じておりますと
ともに、市民の皆様にお約束した、施策の推進を通じた魅力あるまちづくりの実
現に向けた想いをより一層強くしているところです。

2期目となるこの4年間、市民の皆様が“喜びや希望を実感できる新たなふ
るさと宇治”を目指し、安心・躍動・創造を3つの柱として取り組む所存です。

さて、宇治市を取り巻く現状といたしましては、物価上昇や円安の長期化に
よる影響から先行きが不透明な経済情勢が依然として続いており、さらに、人
口減少・少子高齢社会のより一層の進行、地域コミュニティの希薄化や自然災
害の激甚化・頻発化などに加え、環境問題への対応や日々進歩するデジタル技
術の活用など、行政課題が複雑・多様化する中、私たちを取り巻く状況は、ま
ずまず深刻なものとなっております。

一方で、大河ドラマの放映やニンテンドーミュージアムの開設など、宇治の
まちがさらに元気になり、発展する絶好の機会も得ながら、スピード感を持っ
て市政運営を行ってきており、引き続きこの賑わいの流れを加速させるため、
今後訪れます大阪・関西万博の開催や新名神高速道路の整備などの機会も逸す
ことなく、宇治のまちの発展につなげてまいりたいと考えております。

私は、先の4年間、市民生活に大きな影響を及ぼす、新型コロナウイルス感
染症への対策や物価高騰への対応に取り組みながら、「誰一人取り残さないさら
なる宇治の発展」への想いを込め、様々な施策に着手してまいりました。

そして今、これまでに芽吹き、動き始めた施策の息吹を感じるとともに、そ
れらをしっかりと育てつつ、50年先、100年先の将来の宇治のまちとして
のあるべき姿をしっかりと見据える中で、次なる4年間に向け、これまでの流
れを止めることなく、市民の皆様のご意見をしっかりと受け止め、全庁を挙げ
て積極的な施策展開を図ってまいります。

令和7年度は第6次総合計画第1期中期計画の最終年度であります。これま
での取組を総括し、“喜びや希望を実感できる新たなふるさと宇治”を市民の皆

様とともに創造してまいりたい、幸せを実感できるまちづくりを目指したい、そうした想いを改めて強くするとともに、市民の皆様の暮らしの「安心」を守り、市民一人ひとりのさらなる「躍動」を促し、そして、将来を見据えて魅力あるまちを「創造」する、この3つの柱のもと、様々な施策にしっかりと取り組み、目指す都市像である「一人ひとりが輝き 伝統と新たな息吹を紡ぐまち・宇治」の実現に向けて着実に前進していく強い決意を持って令和7年度当初予算を編成いたしました。

2. 令和7年度予算編成の基本的な考え方

物価高騰や能登半島地震をはじめとした大規模な災害を教訓とした自然災害への対応などに取り組むとともに、第1期中期計画の総仕上げとして、市民等との連携・協働や人にやさしいデジタル化の推進などの行政運営の礎となる取組を進めながら、目指す都市像の実現に向け3つの重点施策をより一層推進してまいります。

こうした考えのもと、令和7年度予算については、市民の皆様の安全・安心を守り、子どもの夢をはぐくみ、健やかに育つ子育て・子育てにやさしいまちを目指し、誰もがいきいきと互いを認め合い支えあって暮らせる共生のまちづくりを進め、誰もが住みたくなる、住んでうれしいまちの実現に向け、輝かしい未来へと発展させていくとの想いを込め、また、国・京都府の補助金等、制度改正などの動向に留意しながら、財源の最大限の確保に努めるなど、健全な財政運営にも配慮しつつ、過去最大規模となる総額、約841億円に上る「夢や希望を育む 未来創造予算」として編成いたしました。

3. 物価高騰への対応

所得増加に向けた国の各種政策の効果もあり雇用・所得環境が改善傾向にあるものの、市民生活においては物価高を乗り越える途上にある中で、市民や事業者の皆様に対し、適切な支援を行ってまいります。

水道事業の基本料金等の減免をはじめ、食料品等が高騰する中、小学校給食費の値上げ抑制対策により、引き続き、保護者負担を維持するとともに、低所得世帯に対する給付金を支給し、市民生活への支援に取り組んでまいります。

事業者に対しては、市内の中小事業者の経営力強化、生産性向上のための設備投資等を支援し企業のさらなる成長を促進するとともに、農産物についても

生産コストが上昇している中、生産性向上、省エネ化等を目的とした資材・機器の導入を支援することで、農業者の経営を支えてまいります。

4. 第6次総合計画の着実な推進

(1) 重点施策

第6次総合計画の着実な推進に向け、第1期中期計画期間中に、特に力を入れ、全庁を挙げて取り組む3つの重点施策について、令和7年度の具体的な事業展開をご説明申し上げます。

① WITHコロナ・POSTコロナ時代の**安全・安心**

社会情勢の変化を的確に捉える中で、あらゆる状況下においても市民生活の安全・安心を確保することは極めて重要な課題であります。身近に起こる災害や犯罪などから市民の命や財産を守るとともに、地球温暖化対策も積極的に推進するなど、安全・安心なまちづくりを進めます。また、これまで培われてきた宇治の伝統や歴史、文化などの資源を活かすとともに、新たな宇治の魅力を創出することで、POSTコロナ時代にふさわしい観光振興を図ってまいります。

(災害に強いまちづくり)

様々な自然災害が広域化・激甚化・頻発化している中、市民を災害から守り、安心して暮らせる環境をつくるため、災害等に備えた計画的なインフラ整備や消防力等の充実強化を図り、災害に強いまちづくりを目指します。

まず、昨年発令された南海トラフ地震臨時情報や能登半島地震の状況を踏まえ、必要な防災備蓄品の充実を図るとともに、情報通信技術の積極的な活用を図り、多重的な情報伝達が可能となる同報系の防災行政無線の整備を進めてまいります。

また、避難所等における移動式非常用電源にもなる電気自動車を導入するとともに、近年の気候変動に伴う気温上昇による教育活動や避難所への影響等も踏まえて、小中学校の体育館等への空調設備整備について、初年度として7校の工事に着手するとともに、新たに7校の設計を実施してまいります。

消防・救急体制の充実強化については、地域防災力の向上を図るため、京都

府南部地域における消防指令業務の共同運用に向けた取組を着実に進めるとともに、消防ポンプ自動車や高規格救急車の更新整備など、災害対応力の強化に努め、市民が安心して暮らせるまちを目指してまいります。

防災基盤の整備については、一級河川等の未改修区間の早期改修及び今年度から事業着手した大島排水樋門増設工事の早期完成に向け、引き続き、国・京都府と連携し、より一層の治水能力の向上を図るとともに、大規模災害時における救助・救援、復旧活動を支える役割を担う道路等の計画的・効果的な改修や維持管理に努めます。

また、市民生活を支えるライフラインの要となる上下水道施設につきましても、老朽化の対応や耐震化の実施など、災害時にも安定した給排水を確保できるよう、上下水道一体となり計画的な整備・維持管理を進めてまいります。

さらに、防災拠点・広域避難所の役割を担う黄檗公園において、園路改修や防災トイレの設置を進めるとともに、建物倒壊による災害を最小限にとどめるため、戸建て住宅の耐震改修への補助率の引き上げなど耐震性向上に向けた支援を拡大するほか、管理不全な空き家等への対応や、空き家等の利活用の促進などに取り組むことで、災害に強い安全・安心なまちづくりを推進してまいります。

（地域でつくる安全・安心のまち）

災害や身近に起こる犯罪などから市民の命を守るためには、地域の力が極めて重要であり、市民一人ひとりの防災・防犯意識の向上や、地域で見守る安全・安心なまちづくりを目指します。

「地域の安全は地域で守る」という意識での防犯活動のさらなる推進に向け、引き続き、地域ニーズに基づいた防犯カメラの増設により防犯環境の向上を図るとともに、これまでの取組成果や社会情勢等を踏まえ、令和8年度から令和12年度までを計画期間とする第5次防犯推進計画を策定し、さらなる市民や事業者との協働による防犯意識の醸成と地域防犯力の向上を図ります。

また、気候変動による自然災害は近年ますます深刻な問題となっており、その要因の一つである地球温暖化への対策につきましては、2050年度までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指します。

令和7年度においては、保育所や植物公園、駅前広場の街灯や市庁舎などのLED化や、住宅の太陽光発電設備や蓄電設備の補助制度の拡充などを行うとともに、意識改革や行動変容を図るため、ゼロカーボンセミナーの開催や子どもたちへの環境教育を継続して実施し、エコ・アクションポイントを活用した近隣市町、城南衛生管理組合と連携した普及啓発の共同実施など、市民、事業者、行政が一体となって、ゼロカーボンのまちに向けて取り組んでまいります。

(新たな時代に輝く宇治の観光まちづくり)

POSTコロナ時代においても観光を通して宇治のまちが輝き、豊かになることを目指し、第2期観光振興計画に基づき、大阪・関西万博の開催による広域的な新たな交流の機会を捉え、京都府や周辺市町村をはじめ多様な地域や主体と連携し、インバウンドへの対応も含めた周遊・滞在型の観光を推進します。

大河ドラマの放映を契機に注目された、宇治の歴史・文化・観光の魅力を継続して市内外に発信するため、京都アニメーションと連携したプロモーションの実施をはじめ、源氏物語ミュージアムの特別企画展や「源氏ろまん」事業など平安時代や源氏物語の世界を体感していただく取組のほか、大津市・越前市等と連携し、広域的な情報発信・誘客促進等を進めてまいります。

また、宇治川を軸とする豊かな自然と重層的な歴史を活かしたにぎわいづくりに取り組むため、天ヶ瀬ダム周辺から宇治橋・歴史公園周辺一帯の観光資源を活かした周遊観光の活性化を図り、宇治独自の強みを活かした新たな観光振興に積極的に取り組みます。

さらに、市内の周遊観光を活性化するため、ニンテンドーミュージアムがある小倉地域と中宇治に加え、黄檗山萬福寺の国宝指定を契機に黄檗地域と中宇治をつなぎ連続した賑わいの創出に取り組んでまいります。

② みんなでつくる子育て・子育てにやさしい地域共生社会

一人ひとりの子どもの特性や成長、発達状況などに応じた切れ目のないきめ細やかな子育て支援や教育環境の充実は、宇治の将来を担う人づくりにつながる重要な課題であります。地域や社会全体で子育て世帯を支える子育て・子育てにやさしいまちづくりを進めるとともに、人や地域などの様々な主体がつながり、連携・協働しながら地域や社会でお互いを認め合い支えあう、誰もがいきいきと健康に暮らせる地域共生のまちを目指します。

(子育て・子育て環境の充実)

子育て世代の希望をかなえ、安心して子どもを産み育てられるまちをつくるため、地域で子育てを支える仕組みづくりや、子ども達が健やかに育つ環境づくりを進めます。

今後の子育て支援施策を総合的に推進するため、「『子どもまんなか』のまちづくりの推進」や「安心して子育て・子育てができる切れ目のない支援の充実」など、5つの基本目標を定めた「宇治市子どもまんなかプラン」の策定を進めており、より一層、子育て・子育てにやさしい地域共生社会の実現に取り組んでまいります。

妊娠から出産・子育てまで切れ目のない支援を強化するため、妊婦歯科治療への市独自助成により、早産や低体重児出産のリスクの軽減を図るとともに、産後ケア事業の宿泊型や日帰り型の利用枠を拡充することで、妊婦等に寄り添った支援をきめ細やかに実施してまいります。

また、集団生活を営む上で、必要な社会性の発達や自己統制などの行動面の発達を評価し、適切な支援につなぐ5歳児健康診査を新たに実施してまいります。

乳幼児教育・保育の推進につきましては、令和7年4月に宇治市乳幼児教育・保育支援センターを開設し、3つの柱である「研究・研修」、「保幼小連携」及び「発達・子育て支援」に取り組み、施設類型を越えたネットワークの構築を目指します。

センターの開設を契機に、新たに研究事業や専門職による園訪問支援を実施するなど、3つの柱を中心とする教育・保育の質の向上及び人材育成を図るための取組を総合的に推進してまいります。

国の「こども未来戦略」に基づき試行実施しております「こども誰でも通園制度」については、令和8年度の本格実施に向けまして、対象施設を拡充して実施してまいります。

また、「子育てにやさしいまち実現プロジェクト」につきましては、中宇治・小倉・木幡黄檗エリアで実施していた取組を全市に展開し、子育て世代を中心とした地域のつながりをさらに広げるとともに、木幡・御蔵山エリアにおいて、特色ある地域資源を活用した新たなモデル事業を展開することにより、子ども達が健やかに育つ環境の充実を図ります。今後、市民とともに作る持続的な子育てにやさしいまちづくりをさらに強力に進めてまいります。

(子ども達の学びをはぐくむ教育の推進)

子どもが育つ環境づくりに向けましては、引き続き、市内や京都府との連携による取組を進め、一人ひとりの学びを最大限に引き出す教育施策の充実強化に取り組めます。

なかでも、子ども主体の学びを実現し創造性を育むため、宇治市教育DX推進計画に基づき、ICTならではの強みを活かしたきめ細やかな学習活動の充実を図り、全ての児童生徒の可能性を引き出し、予測不能な時代を生き抜く確かな学力を育成してまいります。その環境整備として、小・中学校全てのタブレット端末を一斉更新するとともに新たな校務支援システムの導入などに取り組めます。

さらに、障害のある子ども一人ひとりが安心して地域の学校に通い、共に学ぶことができる環境づくりと支援の充実を一層図るため、特別支援学校との連携強化により、インクルーシブ教育システムの構築を推進します。

加えて、中学校においては、子ども達が多様なスポーツや文化活動を選択できる充実した活動の保障、学校の働き方改革の推進を目指し、学校部活動の地域展開に向けた実践研究事業を進めます。

また、令和7年4月に開園する「ひがしうじ幼稚園」において、平日の教育課程の教育時間終了後の預かり保育に加え、新たに3期休業期間においても預かり保育を実施します。

不登校対策については、現在生涯学習センターで開設しているUjiふれあい教室を、統合により閉園となる木幡幼稚園に移転し、新たな活動の場で不登校児童生徒一人ひとりの状況に応じた支援の充実をめめます。また、不登校児童支援員を市内10小学校に引き続き配置し、一人ひとりの児童の状況に応じた学びの場の選択肢を広げるための支援に努めます。

学校施設については、宇治西小倉学園について、令和8年度の開校に向けて校舎やサブグラウンド等の整備を進めるとともに、中学校給食につきましても、学校給食センター、各中学校の配膳室の整備を行い、令和8年4月の開始を目指し全力で取り組んでまいります。

(誰もが健康で暮らせるまちの実現)

第2次宇治市健康づくり・食育推進計画に基づき、心身の健康を保ち、生涯にわたって健康に過ごせるよう、市民の主体的な健康づくり活動への支援など、社会とのつながりの中で生きがいを持ち、健康で心豊かに活躍できるまちの実

現を目指します。

健康づくりの推進については、インセンティブの充実など健康アプリの活用による運動習慣の動機づけ・継続支援を引き続き行うとともに、食育を通じた地域主体の取組を支援してまいります。

また、早期発見・早期治療につながるがん検診のさらなる受診率向上に向け取り組むとともに、発症リスクの高い高齢者の重症化予防のため、带状疱疹ワクチン予防接種を定期接種として実施いたします。

介護予防施策、介護保険事業につきましては、2040年を見据え、「宇治市高齢者保健福祉計画」「第9期介護保険事業計画」に基づき、在宅での生活が継続できるよう、介護予防施策のさらなる推進や、介護認定調査においてICT化を図るなど、質の高い切れ目のない在宅医療・介護サービスの提供体制を構築してまいります。

（誰もが住みやすい地域共生社会）

誰もが住みやすいまちをつくるため、地域全体で支える体制を構築し、人と人、人と地域等が世代を超えてつながり、互いの価値観を共に認め合い、支え合うまちづくりを目指します。

中宇治地域における市民協働推進拠点につきましては、様々な市民の皆様のアイデアを具体化し公民連携による整備の方向性を示す整備構想に基づき、市民が主役の交流・連携・学習・協働がうまれる、まちなかのリビングスペースとなるように整備に向けて取組を進めてまいります。

障害者・高齢者権利擁護センターでの相談支援体制の充実や市民後見人の育成などにより、権利擁護に関する包括的な支援体制を構築してまいります。加えて、地域包括支援センターでの認知症の相談支援体制の強化や住民主体による居場所づくりの支援などをさらに推進してまいります。

ひきこもりの悩みを抱える方については、引き続き身近な相談窓口を設置し、相談しやすい環境づくりに努めてまいりますとともに、初期相談以後の継続的な相談対応と専門的な相談支援を強化して、ひきこもりの当事者の社会参加を支援してまいります。

世界の恒久平和に向けた取組については、本年は戦後80年の節目の年でありますことから、その節目の年に戦争の悲惨さや愚かさ、そして何よりも平和

の尊さを訴える平和啓発事業を拡充し、「宇治市平和都市推進協議会」とともに市民の平和意識の高揚に取り組んでまいります。

スポーツ振興を通じたまちづくりについては、ワールドマスターズゲームズ2027関西に向け、「フライングディスクのまち宇治」として市民により親しんでもらうため、アルティメット競技の大会を開催し機運醸成を図るとともに、宇治川マラソン第40回記念大会の開催などに取り組んでまいります。

また、小中一貫校の開校を視野に取りまとめました「北小倉小学校跡地活用基本構想」に沿って、広く市民の「スポーツ・遊びの場」の実現を目指し、アーバンスポーツなどを楽しめる魅力ある公園施設整備のため、基本計画等を策定してまいります。

宇治の強みである文化力による地域活性化の実現を目指すとともに、市民の文化芸術活動の継承発展を推進するため、発表の機会や交流の場として「市民文化芸術祭」や「高校生文化芸術祭典」を実施し自主的な文化事業を支援するなど、宇治の歴史・文化の魅力を広く発信し、文化活動の裾野の拡大に向けた取組を進めてまいります。

また、誰もが住みやすいまちにするため、子どもや高齢者などへの交通安全教育や啓発活動などを関係機関と協力して実施し、交通安全対策の強化に取り組むとともに、病院・買い物など、生活に必要な施設などへの外出機会の創出に向けた移動手段の確保について、試行地域を設定した実証運行などさらなる移動の充実を図ってまいります。

③ 活力あふれる産業振興と未来への投資

50年先、100年先を見据え、将来にわたって持続的に発展できるまちの実現に向けた取組の推進は、今を生きる私たちの大切な役割であります。地域資源を活かした市内産業の振興により市内企業の成長や雇用の創出等を図るとともに、地域の特性を活かした都市基盤整備により暮らしの利便性や安全性の向上を図るなど、活力あふれる産業振興と未来につながる投資を進め、市民生活と地域経済を支えるまちづくりを進めます。

(活力あふれる産業振興)

市内産業への支援としましては、合同企業説明会の開催や企業紹介動画を作成し、市内企業の魅力発信を進め、人材と企業の効果的なマッチングに取り組むとともに、未来の人材育成やふるさとへの愛着醸成に向け、こども未来キャ

ンパスにおける体験に特化した取組の展開や、子どもや子育て世代と商店等との交流促進の取組を実施してまいります。

また、大阪・関西万博に合わせて開催されます「未来モノづくり国際EXPO2025展示会」への合同出展により、万博開催との相乗効果による市内事業者のさらなる情報発信に取り組んでまいります。

加えて、重点課題として位置付けている新たな工業用地の確保につきましては、引き続き、国道24号沿道安田町地区での産業立地の実現に向けた取組を推進してまいります。

（農業を支える取組の推進）

市民の食生活を支える農業の振興は、将来にわたる宇治の発展にとっても極めて重要な課題であり、茶業をはじめ、米や野菜などの農業振興を積極的に推進してまいります。

宇治市で就農しやすい環境づくりに向け、農業経営に係る資金についてJA京都やましろと連携する中で新たに低利で融資できる制度を設け、資金面からも農業従事者を支え、持続可能な農業経営の実現に努めてまいります。また、将来にわたって宇治市の農業を支える担い手への農地の集積を進める取組を行い農業経営基盤の強化を支援するとともに、農業者の新たなチャレンジを積極的に支援し、都市近郊の利点を活かした生産振興、販路拡大、産地力の向上を目指してまいります。

宇治茶の振興については、お茶摘みさんの確保対策をさらに充実させ、高品質な市内産宇治茶の生産支援や魅力発信に取り組み、市内産宇治茶のブランド強化を進めてまいります。

（地域特性を活かした都市基盤整備の推進）

地域特性を活かした都市基盤の整備は、市民生活の利便性や安全性の向上とともに、地域の活性化を図り未来の宇治市の発展につながる重要な課題であり、より一層の推進に努めてまいります。

まず、まちづくりの拠点となる駅前周辺整備につきまして、近鉄小倉駅周辺では、まちづくり基本計画で示した、都市計画道路や都市計画規制の見直しを実施するとともに、土地区画整理事業を軸とした整備を進めるための都市基盤施設の基本設計など、さらに、実現に向け具体的な手続きを進めるとともに、ニンテンドーミュージアムの開設を契機に小倉地域の活性化を図り、市内全体への波及効果につなげるため、歩行空間の環境整備等に取り組めます。

JR黄檗駅につきましては、「宇治市交通バリアフリー全体構想」に基づく、市内14駅の駅舎のバリアフリー化を目指し、引き続き、駅舎のバリアフリー

化工事への支援を実施するとともに、駅前広場の再整備にも取り組んでまいります。

さらに、まちの発展につながる広域的な道路ネットワークの強化や、交通渋滞の緩和及び防災機能の向上に向けた取組につきましては、令和7年1月に設立した「山城北部地域道路ネットワーク整備促進協議会」において、山城北部の7市町が連携・協働し、道路ネットワークの構築に向け、国・府へ要望してまいりますとともに、中宇治周辺地域では、将来のまちづくりを見据えた、まちづくりの検討を進めてまいります。

(2) まちづくりの土台となる取組

目指す都市像の実現に向けた各種施策を安定的かつ効率的に進めるため、行政運営の基盤、まちづくりの土台となる取組を進めてまいります。

なかでも、市民協働のまちづくりをさらに進めるため、地域活動の中心的な役割を担う人材の確保・育成をはじめ、多様な主体が連携・協働できる地域活動の基盤づくりを支援するとともに、市民活動をサポートする取組を推進してまいります。

また、デジタル技術の活用による様々な選択肢を用意することで、一人ひとりがニーズに合ったサービスを選び、多様な幸せが実現できる「人に優しいデジタル社会の推進」に取り組むとともに、職員は職員でしかできない業務に特化することで、人口減少・少子高齢化の進行に対処し、市民サービスを含めた自治体としての機能の維持・向上を図ってまいります。

加えて、持続可能な行財政運営に向けて、公共施設については、引き続き、長期的な施設の維持管理コストの縮減に向け、予防保全を計画的に進め長寿命化を図ってまいります。

5. おわりに

令和7年度は第6次総合計画第1期中期計画の最終年度であるとともに、私の市長2期目の本格的なスタートを切る年となります。この間、宇治市の発展のために、様々な取組を進めてまいりました。その多くの取組が花となり、実を結ぶために、これまでの流れを止めることなく、市民生活の安全・安心の確保と、子どもの笑顔があふれ健やかに育つ誰もが住みやすい将来の宇治のまちづくりに向けた施策の推進に向け、令和7年度予算を編成いたしました。

宇治市を取り巻く社会経済情勢は依然として厳しい状況にありますが、市民の皆様が誇れるふるさと宇治を次世代へつなぎ、喜びと希望に満ちた未来を築くため、「夢や希望を育む 未来創造予算」に盛り込んだ施策の実現に向けて、私を先頭に、職員一同、全力でスピード感を持って進めてまいりますので、市民の皆様、関係団体の皆様、議員各位のなご一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。